

平成 18 年度 日本自転車振興会競輪補助事業完了のお知らせ

この度、日本自転車振興会から平成18年度競輪助成金の交付を受け、先の事業を完了致しました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、日本自転車振興会を始め、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

一、事業名	平成18年度障害者のスポーツの振興補助事業
一、総事業費	36, 099, 381円
一、補助金額	26, 625, 750円
一、実施場所	東京都新宿区西早稲田2丁目2番8号 全国心身障害児福祉財団ビル内 財団法人日本障害者スポーツ協会
一、完了年月日	平成18年10月16日

財団法人日本障害者スポーツ協会
会 長 北 郷 勲 夫

概要

1.第6回全国障害者スポーツ大会

期日	平成 18 年 10 月 14 日(土)~16 日(月)
場所	神戸市、尼崎市、三木市、淡路市内の全 10 会場
参加人数	選手 約 3,300 人 役員 約 2,000 人 計 5,300 人 ボランティア 約 7,000 人 大会期間中の参加者 約 30 万人
実施競技	正式競技 13 オープン競技 5 (精神障害者バレーボール、馬術、視覚障害者サッカー、ローンボウルズ、ビームライフル射撃)

2.第6回全国障害者スポーツ大会予選会(全国7地区)

①聴覚障害者バレーボール競技

全国を 7 地区、平成 18 年 5 月 7 日から 7 月 9 日までの間、予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	青森県	札幌市
関東	千葉県	神奈川県
北信越	新潟県	新潟県
東海	愛知県	静岡県
近畿	大阪市	大阪市
中国・四国	鳥取県	岡山県
九州	福岡県	沖縄県

②車椅子バスケットボール競技

全国を 7 地区に分け、平成 18 年 4 月 3 日から 6 月 12 日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
----	-------

北海道・東北	仙台市
関東1	千葉市
関東2	東京都
北信越・東海	愛知県
近畿	大阪府
中国・四国	高知県
九州	福岡県

③グラウンドソフトボール競技

全国を7地区に分け、平成18年5月13日から6月18日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	青森県
関東	群馬県・山梨県
北信越・東海	愛知県
近畿	京都府
中国・四国	徳島県
九州	沖縄県
大会開催地元	兵庫県・神戸市

④知的障害者バスケットボール競技

全国を7地区に分け、平成18年4月2日から6月18日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	福島県	札幌市
関東	横浜市	東京都
北信越・東海	長野県	愛知県
近畿	奈良県	大阪市
中国・四国	高知県	島根県
九州	福岡市	大分県
大会開催地元	兵庫県・神戸市	兵庫県・神戸市

⑤知的障害者ソフトボール競技

全国を7地区に分け、平成18年5月13日から6月11日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	宮城県
関東	東京都
北信越・東海	岐阜県
近畿	奈良県
中国・四国	岡山県
九州	福岡県
大会開催地元	兵庫県・神戸市

⑥知的障害者バレーボール競技

全国を7地区に分け、平成18年4月2日から6月18日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	宮城県	宮城県
関東	横浜市	東京都
北信越・東海	静岡県	岐阜県
近畿	代表なし	代表なし
中国・四国	山口県	高知県
九州	北九州市	沖縄県
大会開催地元	兵庫県・神戸市	兵庫県・神戸市

⑦知的障害者サッカー競技

全国を7地区に分け、平成18年4月2日から6月11日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	札幌市
関東	東京都
北信越・東海	静岡県
近畿	大阪府

中国・四国	岡山県
九州	大分県
大会開催地元	兵庫県・神戸市

⑧フットベースボール競技

全国を7地区に分け、平成18年5月14日から6月18日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	岩手県
関東	東京都
北信越・東海	愛知県
近畿	奈良県
中国・四国	岡山県
九州	熊本県
大会開催地元	兵庫県・神戸市

3.第35回日本車椅子バスケットボール選手権大会

期間	平成18年4月28日～30日
場所	東京体育館
参加チーム	20チーム 優勝:千葉ホークス(千葉県)
参加人数	選手307人 役員・ボランティア399人
観客数	5,124人

4.2006日本障害者自転車競技大会

■トラックレース	
期日	平成18年5月31日
場所	京王閣競輪場(東京都調布市)
参加人数	選手20人 役員20人
■ロードレース	

期日	平成 18 年 7 月 9 日
場所	大瀧村ソーラースポーツライン(秋田県)
参加人数	選手 24 人 役員 30 人

5.国際盲人マラソン大会

期日	平成 18 年 4 月 16 日
場所	土浦市川口運動公園陸上競技場、霞ヶ浦湖畔
加人数	一般選手 11,429 人 視覚障害選手 159 人 ボランティア 3,000 人以上

成 果

第 6 回全国障害者スポーツ大会

正式競技 13 競技、オープン競技 5 競技を兵庫県、神戸市、尼崎市、三木市及び淡路市を会場に実施。選手・役員、ボランティア、観客など約 30 万人が参加するなか、熱戦と交流が繰り広げられ、閉会式では選手をはじめ参加者が一体となった感動的なコンサートが展開されるなど、県民総参加の下、感謝・感動・歓迎・共生の大会となった。参加する者も運営サイドで関わる者も、また観客もそれぞれに満足し、しかも広く障害者のスポーツについて周知し、普及をする国内最大の大会としての役割を果たした。

第 6 回全国障害者スポーツ大会予選(全国7地区)

本大会の団体競技の予選会を全国 7 ブロックで、グランドソフトボール(視覚障害者)、バレーボール(聴覚障害者)、車椅子バスケットボール(肢体不自由者)、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボール(いずれも知的障害者)の各競技について開催した。この予選会で選ばれた各チームが本大会に出場している。

第 35 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

本大会は今年で 35 回の歴史をきざむ。新人選手の発掘、競技力の向上が少しずつではあるが毎年みられる。往年の名選手にも参加を求め、新人とベテランの交流から車椅子バスケットボールそのものの振興に効果を上げている。メディアにも取り上げられることが多く、障害者のスポーツの全体的な振興に役立っている。

2006 日本障害者自転車競技大会

障害者スポーツの一つとしての自転車競技の発展、競技者の拡大を図るとともに、一般の自転車競技者との交流などにより、選手の発掘、技術の向上につなげることができた。さらに、ポスターや横断幕に補助事業であることを明記したので、競輪の収益が公共の福祉に活用されていることも広く知らせることができた。

国際盲人マラソン大会

視覚障害者のマラソンは伴走者がいれば比較的簡単にできるスポーツであるため愛好者は多い。本大会は関係ボランティア、伴走ボランティア等が多く関わり、視覚障害者のマラソンを、また視覚障害者そのものを広く宣伝することにつながり、選手層の拡大にも大いに貢献した。

今後期待される効果

第 6 回全国障害者スポーツ大会

初めてこのような大会に参加した選手も多いはずである。一人の選手が本大会に出場するまでの経験、また本大会に出場した経験がその選手のその後をどのように花開かせるか。一人の障害者がスポーツに親しむようになることがさらに、その周囲の人に良い影響を及ぼすであろう。

第 6 回全国障害者スポーツ大会予選

団体競技の予選会は本大会にとっては必須のことである。新人の発掘、競技力の向上、競技団体の組織力アップ等と障害者のスポーツや障害者そのものの宣伝に少しずつではあるが影響を及ぼしている。

第 35 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

新人の発掘と競技力アップだけでなく、審判の力量や大会運営力も向上している。新人とベテランの交流を通して、競技団体としての組織力のアップにつながり、日本の障害者スポーツ全体の牽引役として、他の競技団体に良い影響を及ぼしている。

2006 日本障害者自転車競技大会

国際大会の中間年ということで、参加者はけっして多いとはいえないが、日本学生自転車競技連盟との協力関係が大変密になった。大会実施に対する協力はもとより障害者についての理解も大いに深まった。若干ではあるが、新しい選手の参加もあ

り、また好記録が出たことも次大会に向けて期待ができる。

国際盲人マラソン大会

一般ランナーと視覚障害ランナーと一緒にレースをする、国内では貴重な国際大会の一つとして定着してきた。海外からの選手の参加が国内選手の意識を変え、また競技力の向上に大変良い刺激を与えている。また、多くのボランティア等の関わりを得ていることで、資格障害者そのもの、また視覚障害者のマラソン競技について広く宣伝をすることにつながった。

本事業により作成した印刷物

(1)日本車椅子バスケットボール選手権大会	ポスター	1,600部
	プログラム	2,000部
	チラシ	15,000部
	報告書	1,000部

各配布先は以下のとおり

■ポスター

・関係団体等	150部
・各種学校	800部
・病院等	150部
・当日掲載	150部
・その他	150部
	350部

■プログラム

・関係団体等	150部
・出場チーム	300部
・大会関係者	150部
・企業	200部
・賛助会員	350部
・観客	850部

■チラシ

・関係団体等	800 部
・各種学校	8000 部
・病院等	1500 部
・その他	4700 部

■ 報告書

・関係団体等	150 部
・大会関係者	150 部
・企業	200 部
・賛助会員	350 部
・その他	150 部

(2) 日本障害者自転車競技大会	ポスター	100部
	プログラム	200部
	報告書	200部

報告書の配布先は以下のとおり

・各都道府県・指定都市障害福祉主管課	60 部
・障害者スポーツ協会、関係者	40 部
・選手	70 部
・大会来賓	20 部
・協会内配布	10 部